

2 浙江省の概要

(1) 浙江省

地理	<p>長江デルタ経済圏の一翼を担う浙江省は、古来、『魚米の郷、絹織物の府、旅游の地、文化の邦』と称され、東は東シナ海、南は福建省、西は江西省、安徽省、北は上海市、江蘇省と隣接している、</p> <p>陸地面積は10万1800平方キロで、そのうち山地と丘陵が70.4%、平原と盆地が23.2%、河川と湖沼が6.4%を占めている。同省の海岸線の総延長は6486キロで、中国でトップを占め、面積500平方メートル以上の島が3061あり、中国で島の最も多い省である。</p>
気候	<p>亜熱帯モンスーン気候に属し、季節風の影響により、浙江省の風向きは夏と冬で異なり、降水量も季節によって大きく変化する。</p> <p>浙江省は緯度の低い沿海部過渡地帯に位置し、地形の起伏が激しいこと、更に偏西風と偏東風による影響を受けることから、台風、暴雨、干ばつ、寒波、強風、雹害、冷害、竜巻等が多い地域の一つである。年平均気温は15～18℃、無霜期間は230～270日間、年平均降水量は980～2,000mm³。</p>
歴史	<p>寧波市郊外・河姆渡で発見された7,000年前の遺跡群は、中華文明の源の一つとして知られ、また水稲文化の発祥地でもある。河姆渡遺跡から見つかった粳のDNAはジャポニカ種であることが判明したことから、日本の稲作伝来のルーツ地と見なされている。</p> <p>杭州や紹興は、春秋時代には越の都、五代十国時代には呉越の都が、宋時代には南宋の都が置かれたことから、杭州には径山寺、靈隠寺、寧波には天童寺、天台には国清寺等の有名な寺があり、中でも国清寺は天台宗、天童寺は曹洞宗のルーツとして、径山寺は静岡茶の始祖・聖一国師が修行した寺として知られている。</p>
経済	<p>改革開放前1978年、浙江省の工業生産額は46億9700万元であり、全国(1607億元)の2.9%を占めるにすぎなかったが、改革開放後は長江デルタに経済貿易港を有するという地理上の利点に加え、安価な労働力が豊富であったことから、繊維工業や機械工業などの労働集約型産業を中心に、工業が急速に発展した。浙江経済の発展に貢献している要因として民営経済の発展があげられる。浙江省の経済成果と成功事例は「浙江モード」と呼ばれ、「浙江経験」や「浙江現象」として全国的にモデルとなり、今では資源の小さな省でありながら、経済大省として注目されている。</p>



浙江省 行政区画地図

